

個体を2006年3月26日に観察記録しているとの未発表の情報を得たが、そのとき同行されていた立岩幸雄氏によるフィールド日誌にも前翅の先端が鱗粉のはがれた個体だったとの具体的な記述がある。筆者らは2021年3月30日、加古川市平荘町で越冬明けと考えられる本種のオス2個体を観察し、これまでに公式記録がないことが確認できたので報告する。

「兵庫県の蝶」に記載されている通り、本種の加古川市における観察記録もすべて9月以降で、シルビアシジミの生息地でモンキチョウとともにミヤコグサへの本種との三者が競合する産卵もみられる。2020年は10月に加古川市や高砂市で暖地性のクロマダラソテツシジミの偶発もあって、センダングサやヒメツルソバなどで、本種と混じって吸蜜をする場面を多く観察できた。同じ10月に加古川市内の休耕田のあぜ道に多いコガネオタフクマメへの産卵が目立ち、11月下旬から本種の多産につながった。12月になって最低気温が零下となる日が複数日続いて、野外で本種を観察する機会は激減し、2020年の終見は12月2日であった。ちなみに、最近10年間で加古川市での成虫の最も遅い観察日は12月11日となっている。加古川市の公式記録はないため、参考までに姫路市での最高/最低気温を調べると、表1に示すように、最低気温が零下となる日が2020年12月と2021年1月にそれぞれ8日間あって、1月8-10

表1 姫路市の最高/最低気温(°C)

2020	12/16	12/17	12/18	12/20	12/21	12/22	12/23	12/31
最高	8.0	7.8	9.1	9.2	10.8	12.2	12.7	6.7
最低	-0.6	-1.5	-0.4	-0.3	-2.0	-1.6	-0.1	-0.8
2021	1/1	1/2	1/3	1/7	1/8	1/9	1/10	1/11
最高	7.3	9.0	9.9	11.1	3.0	5.1	8	8.1
最低	-1.5	-2.5	-2.1	-0.9	-5.3	-6.9	-5.1	-2.8

日の3日間は零下5度を下回る厳しい寒さとなっている。

本種は秋に発生した個体が暖かい地域から北上して分布を広げる習性があるが、今回観察できた本種(図1, 2)が加古川市内で越冬した個体なのか、強い飛翔力によって温かい南の地域から飛来したものか、その経緯はわからない。観察できたのは比較的新鮮なオスと鱗粉色があせたオスの2個体で、いずれも黒岩山(標高132m)の山頂部に近い岩場でススキ類の枯れた茎や葉上にとまって日光浴をしており、ビデオカメラを準備して近づく気配で飛び立っても、あたりを飛び回ったあと舞い戻って枯れ茎や葉上ですぐに開翅姿勢をとるといった行動を繰り返していた。これら加古川市における初の越冬明け成虫の観察記録を以下に示しておく。

観察日: 2021年3月30日 10-11時

観察地: 加古川市平荘町黒岩山(132m) 山頂近く

撮影者: 島崎正美

本報告に際し、情報提供にご協力くださった近藤伸一氏と竹内隆氏に感謝いたします。

○参考文献

広畑政巳・近藤伸一 2007 『兵庫県の蝶』 331pp.

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

(Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

シルビアシジミの珍しい挙動

島崎正美・島崎能子

2021年4月、兵庫県加古川市でシルビアシジミのオスが昼間に休眠中の小型スズメガ科のコスズメ *Theretra japonica* に何度も体当たりの接触を試みる挙動を観察でき、珍しい事例だと思われるので報告する。

シルビアシジミのオスがミヤコグサの自生する草地で低空飛翔をくりかえしてメスを探す(探雌飛翔)光景は、シルビアシジミの生息地ではごく普通にみられる。今回、シルビアシジミの発生状況の調査時、探雌飛翔を繰り返すオスを認め、撮影記録をとることを目的として、



図1 コスズメの胴体に脚で接触。



図2 コスズメの左翅に脚で接触。

静止するまでその飛翔について回っていたところ, ある1か所で何かに執着するような飛翔に変化した. メスを探し当てたのかとよくみると, 草陰で休眠している夜行性のコスズメにシルビアシジミが何度も体当たりを試みるという珍しい挙動だと判明. いつものように探雌飛翔を繰り返していたシルビアシジミが, 偶然に休息中のコスズメの存在に気づき, いったい何者かと, その周りを何度も飛び回り, ときにはコスズメの胴体や翅部分に体当たりをして, 何度目かの接触時にはコスズメが嫌がるように翅を閉じる動作を示した.

このとき周りには他のシルビアシジミはいなく, コスズメに関わり合っていた時間は, 最初から最後まですべての挙動をビデオ撮影できた約15秒間で, コスズメが嫌がって翅を動かした段階でまた元の探雌飛翔に戻り, 結局はメスには出会えずにヒメハギで吸蜜し始めた. ビデオ撮影の内容を確認すると, シルビアシジミは何度もコスズメのまわりを飛んで, ときには体当たりの脚部分で胴体や翅に接触をしていることがわかる.

シルビアシジミの生息地では, オスの探雌飛翔中に他のオスが休息しているそばを飛んだ際にオス同士の絡み飛翔が始まることはよく目にできるが, 共にミヤコグサを食草とするモンキチョウが紛れ込むことがあっても, モンキチョウに体当たりをするような光景に出会ったことはない. 今回のように, シルビアシジミが他の昆虫に対してある意味攻撃的な挙動を示したことは珍しい事例だと思われる.

休息中のコスズメにまわりついて, 脚部分で胴体(図1), および左翅(図2)への接触を試みるシルビアシジミの様子がわかるように, ビデオ撮影記録から切り取った静止画像を示しておく.

観察日: 2021年4月27日12時50分

観察地: 兵庫県加古川市志方町

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

(Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

兵庫県におけるカワラヒメコケムシの記録

脇村涼太郎

カワラヒメコケムシ *Euconnus dulcis* Sharp, 1886 は, 長崎県から記載されたハネカクシ科コケムシ亜科の甲虫である (Sharp, 1886). その後福井県からも記録され, 湿地性であることが明らかとなった (保科, 2010). 筆者はこれまで記録が無かった兵庫県にて本種を採集しているので報告する.



図 兵庫県産カワラヒメコケムシ.

1 ♀, 兵庫県姫路市余部区上余部, 23. X. 2017, 脇村採集, 保管.

採集したのは兵庫県南部を流れる揖保川河川敷で, 台風で増水し河川敷に打ちあがった漂着物を篩にかけることによって得られた. 未筆ながら, 本種を同定していただき, 文献をご教示頂いた保科英人博士, 写真を撮影していただいた田作勇人氏に厚く御礼申し上げます.

○引用文献

- 保科英人, 2010. 日本産コケムシ科ヒメコケムシ属の分布に関する知見. *ねじればね*, 127: 19-20.
Sharp, D., 1886. The Scydmaenidae of Japan. *The Entomologist's Monthly Magazine*, 23: 46-51.

(Ryōtarō WAKIMURA 東海大学生物学部)